

平成27年度第3回 富士市学校給食地場産品導入協議会 報告

11月11日(水) 10:00~15:30

文責:小櫛和子

考える会参加者:保科、西村、増田、山本、古郡、小櫛

市内圃場の視察

*学校の出前授業の講師の圃場

視察先: 佐野農園(みかん) / 富士市岩本
半田農園(かぶ) / 富士市中里
安藤農園(ほうれんそう) / 富士市富士岡

1. 佐野農園

- ・減農薬栽培
- ・新しい品種の木・・・収穫できるようになるには、10年以上かかる。
通常は、30年位で取り換えていく方が、効率が良い。
- ・早生ミカンのハウス・・・樹齢50年位
つぼみがついて、 第1次落下で90%
第1次落下で残りの7%
その後、6月下旬に白いシートを敷く(マルチドリップ栽培)
水を通さない。
乱反射して、枝のどの部分にも光が当たりやすくする。
9月に摘果する。(平均の大きさになるサイズだけ残す)

2. 半田農園

- ・サラダ蕪の栽培(やわらかくて、生で食べても美味しい)
- ・栽培期間は、40~90日(冬は時間がかかる)
- ・12センチ間隔で、1粒ごとに蒔く(1列2000粒位)
- ・ネットをかけて栽培。出荷の7~10日前にネットを外して、外気に当てる。やわらかい蕪が少し絞まる。
- ・同じ畑で、年2回栽培している。
- ・種蒔きの時期を2週間位ずらしていくことで、定期的に収穫できる。

3. 安藤農園

- ・主にほうれん草を栽培。
- ・ほうれん草は、赤土が適している。(水はけが良い)
- ・ほうれん草の根は、1メートル位になる。
- ・色々な品種を研究し、時期に合わせて蒔く。
- ・色々な工夫で、出来るだけ農薬を使わない栽培を心がけている。

(参加者の感想)

- ・隣り合わせている土地でも、赤土と黒土では、作る作物が違うことが驚きだった。
- ・安藤さんが、「蕪を作るのは難しい。肥料のバランスなど特に技術と経験が必要だ」と言っていました。同業者だから作物作りの難しさが良くわかるのだと思いました。